

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702800		
法人名	有限会社ケア・サービスさかえ		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	北九州市八幡西区木屋瀬二丁目7番8号		
自己評価作成日	2020年8月5日	評価結果確定日	令和2年9月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和2年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町内会や商工会に加入し地域の行事に参加できるように努めているが、コロナの影響で、イベントの中止が続いている。ホームでのコロナウイルス感染防止対策を徹底している。 手洗い・手指の消毒・うがいはもちろん、換気や物品の消毒も朝・夕2回している。 食事でも一斉に食べず対面は避け、数人数ずつ食べる様に工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員に理念が浸透しているなか、地域の一所帯として参加していた地区敬老会や地域防災訓練はコロナ禍で中止となり、5月の運営推進会議は報告書のみ配布し、7月はフェースシートを使用しながら、家族や市職員等の参加で開催している。感染防止の取り組みや物品の不足状況、家族アンケート内容等を報告し、毎回参加される家族もあり、マスクの寄付を受けている。「トイレに連れて行って」と頻回に訴え、食事を拒む入居者の心身の状況をモニタリングし、まだらな認知力の低下をそのまま受け止め、理念にある穏やかな暮らしの支援を全職員で模索している。かかりつけ医から予後の説明を受けて自然な終末期を希望した家族は、苦慮の末経管栄養を選択している。揺れ動く家族の思いを受け入れながら看取りを支援していく予定で、さらなる理念の具現化が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／
事業所名

グループホームこころ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示している。	開設以来の理念は、この3年間は職員の離職もなく職員に浸透していると、管理者は話している。家族などからの紹介で現在は満室のため、空室になるのを待っていると話す施設関係者もあり、理念の実践が伺える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、コロナの影響で活動交流が減った。	恒例だった地区敬老会や地域防災訓練の参加などは、コロナ禍で中止となり、再開が待たれている。歳末の恵比寿福引では毎年入居者が景品を当てていたが、昨年は特賞の旅行券を引き当て、大いに盛り上がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議に参加している民生委員や、市の職員方との話し合いをしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に活かせるようにしている。	5月は報告書のみ配布したが、7月はフェースシートを使用しながら、家族や市の担当職員等の参加で開催している。感染防止の取り組みや物品の不足状況、家族アンケート内容等を報告し、会議録は事務室前で公表している。毎回参加される家族もあり、マスクの寄付を受けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に参加している市の職員の方に、ホームの空室状況を伝え、地域で困っている方が居ないか等たずねている。	9月は市主催の新型コロナウイルス感染対策の研修に参加する予定で、情報の共有に努めている。毎月市にFAXで報告している居室情報は、市のホームページに掲載されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内での研修を行い、身体拘束を行わないケアに努め、身体拘束ゼロ委員会を組織している。身体拘束適正化検討委員会を、3ヶ月毎に実施している。離所の防止にチャイムを設置し、その時々に応じ、玄関は施錠している。	外部の身体拘束に関する研修に参加し、定期的に適正化委員会を開催している。薬による拘束に配慮し、かかりつけ医を通じて専門医療機関を受診している。管理者は「待つて」ではなく、「待たんで」優先して対応するようにと、日頃から指導している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内での研修を行い、高齢者虐待防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市のパンフレットを掲示し必要に応じ活用し、支援出来るようにし、現在は1名の方が入居している。 (成年後見)	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備し、活用を支援している。1名の入居者が制度を活用しているが、後見人の来訪はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。 毎年、家族アンケートを実施し要望等を聞き取りしている。要望等はないが、質問が有りました。	家族アンケートから、2名の入居者の居室に連絡ノートを整備し、連絡の徹底に努めている。来訪時に個々の暮らしぶりを報告しているが、昨今の状況から来訪を控える家族も多く、短時間になる傾向を懸念している。外出やおやつ作り時の笑顔満載のホーム便りの発行や個々のアルバムづくりを継続している。	密を避け入居者を3つのグループに分けて食事を支援している感染防止の取り組みをホーム便りで報告するなど、さらなる意見の表出を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行なう社内ミーティングで、要望や提案を尋ね職員が意見しやすい職場環境に努めている。	月1回のミーティングでは、率直な意見交換が行われている。茶葉を粉茶に変えたり、季節感のあるウォールステッカーのを使用してホームを明るくしてはとの提案があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力に応じ業務を任せている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別は問わず募集しているが、思うように人材確保ができていない。(遅番)	70歳で退職した職員はあるが、この3年間は離職はなく40歳代の職員が多い。社会性が乏しいなどの特性で短時間勤務の職員の穏やかな対応に学ぶことが多いと話す職員もあり、人材育成に努めている。認知症研修に参加した職員は、疾患やケアの理解が深まったと話している。昼休みを交代で取り、介護職員慰労金を申請するなど、生き生きと勤務できるように支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権週間に合わせ社内研修をした。	身体拘束に関する研修等の参加で、ドラッグやスピーチロックに留意した支援を日々実践し、理念に掲げた穏やかで楽しく尊厳のある生活を目指すケアに努めている。	保険者主催の人権研修の参加で、さらなる人権教育や啓発活動を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染拡大前までは、社外研修に参加した。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者のみ交流がある程度。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限りご本人やご家族の方との面談を行い希望や要望等聴いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談時(電話・訪問)から詳しくお話を聴き、可能な限りご本人にも見学に来ていただいている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ他のサービスや施設の検討をすすめている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務を優先する事ないように常に心がけ一緒に過している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時はもちろん必要に応じて電話での現状報告(日常的な出来事や急変時等)し、ホームのアルバムを回覧したり年に3～4回はホーム便りを配布している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方や友人関係の方宛に本人が書いた手紙を定期的に出せるようにしている。	職員と作成したレンコンハンコを使った暑中見舞いは今夏も好評であった。昨年の敬老の日は、家族と過ごして欲しいと外出や外食を支援しているが、今年も家族に声かけをする予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がふれ合えるような環境や雰囲気作りを職員も心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙を定期的を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人及びご家族の方に希望を聞き、出来る限り希望に応じられる様に取り組んでいる。	家族構成や生活歴などのフェースシートやアセスメントシートを整備し、意向の把握に努めている。また、敬老会前に年長の入居者の家族にお願いしている職歴や生活歴などの投稿は、家族が入居者との関りを振り返る機会にもなっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方やご本人に生活歴等を聞き取り職員全員で把握するように個人ファイルに綴じている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に心がけ現状はどうなのか観察し、日々記録している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活歴等の情報を収集ご本人や、ご家族の意見や要望を取り入れ、介護計画を作成している。	「トイレに連れて行って」と頻回に訴え、食事を拒む入居者の心身の状況をモニタリングし、家族の要望に沿って現状に即した介護計画を作成している。まだらな認知力の低下をそのまま受け止め、穏やかな暮らしの支援を模索している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人とのやりとりを行なった介護等を詳細に記録している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の能力に応じ、家事や買い物等できる様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じて入居前のかかりつけ医を継続しているが、現在はホームでの往診者が多い。	全入居者とも協力医療機関から訪問診療を受けているため、週1回は訪問があり、状態の変化を随時報告し、専門医療機関受診などを相談している。職員が同行している眼科や皮膚科の受診状況は家族に報告し、全職員で共有している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録とは別に気づきノートを活用し個人の情報を伝達している。 常に看護師へ報告・連絡・相談し健康や安全に配慮したケアを行なっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに脚を運び状態や経過の情報を得るようにしているが、コロナの影響で面会が出来ない。 早期退院に向けたマニュアルを作成		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な場合は病院への搬送が多いがご本人や家族の意向を入居時に確認し1年に1回再確認している。	今年2月、経管栄養を支援していた方を看取っている。現在は、6名の方がホームでの看取りを希望している。経口摂取ができなくなりかかりつけ医から予後について説明を受けて自然な終末期を希望した家族は、苦慮の末経管栄養を選択している。管理者は揺れ動く家族の思いを受け入れ、その都度確認しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時マニュアルを作成し見やすい場所に掲示してある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難マニュアルを作成し避難訓練を利用者と共に行っている。	日頃から避難経路を確保するために、共用空間の整理整頓やエアコンの前に干している洗濯物を注意している。7月の運営推進会議で避難シュミレーションを報告し、安全に移動できる避難場所を検討している。入居者の持ち出し書面を検討し、整備した避難袋を事務所前に設置している。災害時は地元消防団に協力をお願いしたいと、管理者は話している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい暮らしが継続出来る様に、常に配慮し行なっている。	「〇〇さん」と名字でゆっくりと穏やかな声かけを実践している。入居者の目線で手ぶりや物を差し出して意向を確認している職員の姿は、入居者を主体とした尊厳のある暮らしの支援に繋がっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との対話に基づき個人を第一に考え支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送れるように心がけているが比較的自由に過ごしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している方が多い。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形状や自助具の工夫、食事時の姿勢等個人に合わせている。 密接を避ける為、少人数で食事をしている。。	密を避け、入居者を3つのグループに分けて個々のペースに応じた食事を支援している。献立や食材は業者搬入であるが、月2回のおやつ作りは好評で、食事介助が必要な入居者も自ら手を伸ばすほどである。食器拭きをお願いする入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に献立の作成をお願いし栄養バランスは十分である。食事量や水分量は1日を通じ記録を残している。その日の気分で食事(ご飯)が摂れない場合は、好みの食べ物を捕食している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個々に応じた介助等を行なっている。又歯磨きが困難な方には、スポンジを使用しイソジンウガイ薬で口腔内を消毒をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンをチェックしその都度トイレでの排泄を心がけている。	排泄が自立している入居者もあるが、7名の車イス利用の入居者には、職員2人体制でトイレでの排泄を支援することが多い。「トイレに連れて行って」と頻回な訴えに丁寧に対応したり、顔をしかめるなどのサインを見逃さないようにしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、こまめに水分補給をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2～3日のペースで入浴している。毎日お風呂にお湯を入れるので、いつでも入浴は可能である。重介護の方は、全身清拭の場合が多い。	7名の車イス利用の入居者には、職員2人体制で入浴を支援している。入浴を億劫がる入居者も入浴後は「ありがとう」と話している。入浴を楽しんでもらいたいと、浴室の清掃は行き届いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて外気浴や散歩等行なっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの処方された説明文を個人ファイル綴じ周知している。また処方の変更があった場合は看護師から介護職員に伝達している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝いをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を自粛している。 近くの公園に散歩に出かける程度。	今年も初詣、桜やひな祭りの見学に出かけている。外出希望を叶えたいと、施設から転居された入居者もあるため、コロナ禍に配慮しながら、近隣の公園やドライブに出かけている。車イスの入居者が7名もあるため、3名ずつ対応している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、金銭を持参している方はいない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々手紙を送る程度。電話の利用ない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベントの写真等飾っている。	玄関を入ると、笑顔の職員や酷暑で室内に避難した愛犬ころがが出迎えてくれる。共用空間の左右に厨房や居室は位置し、事務室から全体を見渡すことができる。入居者が見やすいように壁に斜めに掛けられたボードに行事時の写真が掲示されている。空調は管理され、食事に集中してもらいたいとテレビの向きを変えたりしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い場所を確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自居室には自宅で使用していた馴染みのあるベッドや整理箆箆等を持ち込み生活しているが、最近では、荷物の搬入があると、入居を見合わせる方が増えた。	居室にはベッドや箆箆が備え付けられ、テレビや椅子を持参したり、写真が飾られている。転倒を防止するためにマットレスのみの居室もあり、心身の状況に応じた居室づくりを支援している。居室に個人アルバムを整備し、退去時に家族に渡しているが、今年初めに逝去された方は遺影として活用されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで各所に手摺りを設置しトイレや居室には表札を付け出来る限り自立した生活を送れるようにしている。		